

リンスコネクが本格始動 日独の橋渡しに

主にドイツ製品を取り扱う輸入商社、リンスコネク(東京都江戸川区、山下宏社長)が本格始動した。手始めの商材は、ドイツでトップシェアを誇るメッツコネクのイーサネット用のコネクタやコネクタ付きケーブル。山下社長は「イーサネットの今後の発展を支え、さらには日独の橋渡しにもなりたい」と意気込む。

現場を知らなければ売らない

山下社長は、昨年3月まで輸入商社の社長を務めていた。その後、しばしの休養を経て、新たな輸入ビジネスの可能性を探り始めた。

連絡を取った旧知のドイツ人の中の一人が、イーサネット用のコネクタシステム、制御機器などのメーカー、ドイツのメッツコネクの営業トップだった。日本市場に未参入だったが「日本市場はポテンシャルが大きい」と、日本でのメッツの総代理の話が進み、昨年6月に総代理店契約を結んだ。

そこから新会社であるリンスコネクの立ち上げ準備を急ピッチで進め、7月7日に設立。昨年中は市場調査などの準備を進め、今年からの本格稼働にこぎ着け

た。

「信頼関係や市場戦略もあり、契約は好条件で締結できた」と山下社長は話す。今年は3つの展示会にも出展予定だ。また、山下社長の信念は「現場を知らない製品は売らない」。メッツについては昨年、ドイツで2週間の研修を積み、強固な関係を構築し、技術、製造、品質管理も熟知した。

ドイツでトップシェアを誇る

メッツは、イーサネット用のコネクタシステムでドイツのトップシェアを誇る。イーサネットはLANが主で、特に電源もつなぐ「パワー・オブ・イーサネット(PoE)」は今後の有望株とされる。注目の用途は産業用カメラなど。工作機械や産業用ロボットをはじめとする産業機械分野で採用が拡大して

いる。2026年には22年比で需要が倍増するとも言われる。イー



「日独の橋渡しに」と山下宏社長は話す(提供)

サネットのコネクタ形式は「RJ45」が主流だが、産業分野ではM12丸形コネクタのDまたはXコードが増加する傾向があるという。メッツのノイズに強いコネクタ技術には大きな優位性がある。「産業機械分野では今後、大量のデータをリアルタイムで高品質に扱う必要があり、コネクタやケーブルにもこだわらざるをえなくなる」と山下社長は見通す。

メッツの製品は、現場で長さを調節して効率的な配線を実現する「現地成端」が特徴で、剛性やシールド効果に優位性がある。機械とネットワークの間で問題視されるのは、速度低下などを招く混線(クロストーク)だが、この点でも高い性能と信頼性を誇るという。

日本にない商材を海外から

「同じ規格のコネクタやコネクタ付きケーブルでも、品質の差で通信のパフォーマンスが向上する。デジタルトランスフォーメー



メッツコネクのイーサネット関連製品群

ション(デジタル変革、DX)が急加速する製造業のFA機器、ビルや工場のデータセンターまでの配線に訴求していく」(山下社長)

メッツの期待は、日本市場への浸透。ドイツでは工作機械を含む産業機械、鉄道車両、EV関連、

データセンターなど豊富な実績がある。カスタマイズや特注品にも柔軟に対応する。また、標準品は3週間の短納期を誇る。

「まずは起業に際して自分に勇気と行動力を与えてくれた友人に恩返ししたい。そのためにはメツ

ツ製品を日本市場で軌道に乗せる。また日本にない商材を海外から日本市場に届け、コンサルティングも含めて顧客をハッピーにしたい。日独の橋渡しになりたい」と山下社長は力を込める。

(芳賀 崇)